

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990900110		
法人名	エフビー介護サービス株式会社		
事業所名	グループホームエフビー木綿の郷		
所在地	栃木県真岡市下高間木一丁目7-1		
自己評価作成日	平成30年11月10日	評価結果市町村受理日	平成31年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamapp/hvoka/003hvoka/hvokanri.nsf/aHvokaTop?0
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成30年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

歩いて行ける距離にショッピングモールがあり、とても賑やかで便利な場所ですが住宅街に立地しているため静かな環境でゆったりと過ごしていただけます。南側にはテラス、菜園があり季節の花や野菜を育てて鑑賞したり、収穫した野菜を料理に使い皆で味わったりして楽しんでいます。今年度より認知症カフェを開催しており、地域の方々との交流を図る良い機会となっています。清潔で快適な環境で生活していただけるよう環境整備に力を入れています。その人らしさを大切にして個別ケアを中心とした自立支援を心掛けています。利用者様が安心して笑顔で過ごしていただけるようスタッフはいつも変わらぬ穏やかな対応をさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・事業所は真岡市の住宅街にあり、商業施設も近く住みやすい環境である。
- ・2ヶ月に1回の職員会議や20分間の朝礼などで出た職員の意見や提案を、その都度検討して対応している。管理者が職員の表情を見て必要性を感じたときには、面談も随時行っている。
- ・本人からの聞き取りが難しい利用者には、家族や友人に聞き取りをしている。必要があれば入居前に利用していた介護サービス事業所にも聞き取りを行っている。
- ・職員と利用者が一緒に食材を買い出しに行き、毎食手作りの食事を提供している。
- ・月に2回ぐらいは、井頭公園のバラ園の鑑賞や道の駅での買い物などの外出をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしさを大切に、私たちに何が出来るか。を常に考え利用者様が安心して穏やかに過ごしていただけるお手伝いをさせていただきたいと考えています。朝礼での読み合わせを行い理念を意識しています。	法人の理念を毎日の朝礼で読み合わせを行い、理念を意識する取り組みをしている。理念が記載された手帳を全職員が所持している。事業所の方針は管理者が作成し、職員がいつでも確認できるようにファイルにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園やスーパーへの買い物、飲食店などへ外食に出かけたり、夏祭りへの参加や小学校の運動会見学など地域の方々に接する機会を提供できるよう心がけています。ボランティアの受け入れなども行っています。	真岡市の夏祭りへの参加や小学校の運動会の見学など、利用者が外に出て地域の方々と交流する機会がある。手打ち蕎麦やフラダンス、踊りなどのボランティアを事業所に呼んで交流する機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症家族会の開催や今年度は認知症カフェを行い地域の方々と交流を図り認知症への理解について、発信させていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回運営推進会議を開催しています。地域の方や家族様からの意見交換を行い、得た情報を活かしていけるよう努力しています。	2か月に1回の運営推進会議では、町内会長や民生委員、地域包括支援センター、家族、利用者の参加により意見交換が行われている。地域のイベント情報や認知症状の対応方法の勉強会が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	確認が必要な際は連絡をし回答いただくようにしています。2か月に1回の相談員の受け入れと、認知症カフェを開催し、情報の共有なども行っています。	制度改正などの確認が必要な際は、市の担当者に随時連絡をして回答をもらっている。市との協力で認知症カフェを開催し、認知症でお悩みの方の情報交換や相談の場となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、委員会を設けると共に年に2回社内勉強会を行い理解を深めて身体拘束のないケアを実施できるよう努力しています。	身体拘束について、委員会が中心となり3か月に1回会議を行っている。身体拘束に限らず、適切な言葉遣いを習慣にするための内部研修も行っている。また、新人職員に対して、マナー研修も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待に値するかを理解できるよう勉強会等を行い防止に努めている。声かけにも注意するよう意識づけを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉概論の倫理と、介護保険法及び自立支援等の遵守しサービスの提供を行っていきたくと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には提供する福祉サービスの内容の説明と利用者様や家族様の要望や思いを伺いサービスに反映できるよう努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口の設置と家族様面会時には意見や要望等、利用者様の現況をお伝えする中で伺えるようにしています。運営推進会議でも意見交換をする中で可能なものは反映するようにしています。	家族の面会時に職員が利用者の現況を伝える中で、意見や要望などの聞き取りを行っている。申し送りで出た情報を、利用者の支援に反映させている。	意見箱の設置やアンケートの実施により、匿名で意見できる体制を作ることと、表出された意見を公表することで、更なる開かれた事業所運営ができることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや朝礼等で出た意見や提案はその都度検討して、対応に努めるようにしています。スタッフの面談も必要な時は行っています。	2ヶ月に1回の職員会議や20分間の朝礼などで出た職員の意見や提案を、その都度検討して対応している。管理者が職員の表情を見て必要性を感じたときには、面談も随時行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の導入で定期的に自己評価と上司評価があります。個々が目標を立て達成できることを目指しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修の情報の収集と提供をし参加を促しています。スタッフが目標を持って自己啓発に努め専門性、組織性の向上と人間的向上を目指しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	多職種連携研修会へのスタッフ参加を促し交流の機会を増やす努力をしています。事例検討会などにも積極的に参加できるようスタッフへの呼びかけをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される方には事前訪問を行い、本人様にお会いし情報の収集に努めています。家族様からも生活歴等お伺いしその方への理解を深められるよう努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様はもちろん、家族様へも耳を傾けて少しでも安心していただけるよう入居に関して説明し必要であれば家族様の意見を取り入れるなどし不安の軽減に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多くのディスカッションを重ねて本人様と家族様の重いに寄り添えるよう、今できることできないことの把握をしてサービスの提供に取り組んでいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性を大切に尊重する中でも共同生活においての個々の役割の確立と信頼関係を築けるような関係性を目指しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族様には良い距離感を保ちながら、利用者様を尊重し家族様と共に支い合えるよう日頃から日常の報告や相談ができるように心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が築き上げてきた関係性を理解すること、面会者の制限もなく友人や近隣の方々が気兼ねなく訪問できるよう配慮しています。	入居以前からの友人や知人が訪問し、居室やホールなどで談笑したり、一緒に外出したりしている。家族の送迎で入居前から通っていた美容室へ行ったり、以前に働いていた仕事仲間の集まりに参加したりと関係を継続させている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性の把握に努め、利用者様同士が良い関係性を築けるようにスタッフが介入し話題の提供や孤立感を与えない家庭的な雰囲気と環境を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された本人様が変わらず生活されているか電話や来所時に会話を多くとるように心がけています。退去されてもいつでも相談していただける体制であることを家族様にお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様がどのような生活が快適と感じるか楽しい時間をどのように取り入れるかを考え生活歴や好み等をヒントに困難な場合でもその方の立場に立つ検討を心がけています。	法人で作成されたアセスメントシートを用いて、意向を聞いてケアに反映させている。本人からの聞き取りが難しい場合には、家族や友人に聞き取りをしている。必要があれば入居前に利用していた介護サービス事業所にも聞き取りを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や本人様からお話を伺ったり、介護支援専門員からの情報の収集、面会に来られた親戚の方や友人からも生活歴の情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況などを申し送りや報告書や連絡ノートを活用して利用者様の状態の変化について職員間での情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスやミーティングを実施し個別ケアの見直しや、家族様の要望などもくみ取り介護計画に活かせるように努めています。	家族などから聞き取りをした利用者の趣味や嗜好、家族の要望なども反映させて介護計画を作成している。ケアカンファレンスやミーティングを実施して、個別ケアの見直しを適時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の温度版や、排泄、水分量のチェック表を活用しケアの実践として残していくことでせいじつようきょうの把握と、日々の経過記録に情報を残すことで介護計画へ反映できるよう取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応できるように利用者様や家族様に耳を傾けて、可能な限り対応できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域広報誌や民生員の方々の情報を元にインフォーマルサービスを利用することで、地域に根付いた支援ができることを目指しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけ医がある方には入居後も継続していただいています。緊急時以外の通院に関しては家族様と本人様の関わりを大切にする意味でも家族様の対応をお願いしています。	入居前からのかかりつけ医がある方は、入居後も引き続き受診している。訪問看護師が週1回訪問して、利用者の健康管理をしている。また夜間は訪問看護師がオンコールの対応をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護師の訪問時には利用者様の状態と情報を伝え適切な対応ができるように努めています。自事業所でも看護師を配置しており、利用者様の状態の把握に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には連携シートを作成し情報の提供に努めています。入院中には面会をして、現在の状態の情報の把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より見取り介護指針の説明を行い家族様の同意を得ています。見取りとなった場合には本人様、家族様の同意の上、家族様の意向を十分に取り入れながら多職種との連携を図りながら対応しています。	看取りを実施する際は、本人・家族の同意の上、意向を取り入れながら進めている。事業所は、訪問看護師や看取りに熟知した医師と連携してチームで取り組んでいる。看取り後は、訪問看護事業所の協力で、医師も含めたデスカンファレンスを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生、再発防止及び緊急時の対応として内部研修の実施をしています。また管轄の消防署や警備会社より緊急時対応における訓練を定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて、年2回避難訓練を実施しています。日中夜間を想定して対応できるように利用者様を交えて避難する方法を身につける体制をととのえています。	災害に備えて、年2回の避難訓練を実施している。1回は消防署職員が立ち会っての訓練である。日中に夜間を想定した避難訓練を行い、利用者も出来る限り各自で避難する方法を身に付けている。	食料、水などの備蓄の整備を本社と相談して取り組むことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理、法令遵守プライバシー保護の内部研修を実施しています。家庭的な雰囲気を大切に丁寧語で対応することを心がけています。	年1回は倫理、法令遵守などのプライバシー保護についての内部研修を実施している。管理者は職員に対して「自分がされて嫌な行為はしない」など、自身の行為を振り返る機会をつくり、介護のプロとしての意識を持つよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との関わりを多く持つことによって、何を希望しているか、訴えられない方でも表情で読み取れるようにコミュニケーションを怠らないように努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりにあった生活スタイルやリズムに合わせた支援ができるように努力しています。可能な限り利用者様本位の視点で対応できるように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定の可能な方には、洋服を選んでいただいたり、髪をとかす、髭を剃る等を週間となるような働きかけ、声掛けをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の希望を取り入れたメニュー作りや、特別な日のイベントメニュー計画し取り入れたりと一緒に台所に立ち調理したり、後片付けなどを行っています。	職員と利用者が一緒に食材を買い出しに行き、毎食手作りの食事を提供している。クリスマスにはケーキやチキンを用意したり、敬老の日にはお重のお弁当を食べるなど、利用者の希望を取り入れたメニューを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた量や形状を職員が把握して提供しています。毎食後の食事量のチェックや必要な方には水分のチェックも行っています。ご自分での摂取が困難な方には声掛けや介助を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行える方には毎食後の口腔ケアの声かけを、自立支援の観点から、まずはご自分でやって頂き必要の際には介助を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を元に排泄パターンを把握して、可能な限りトイレでの排泄を促しています。また排泄失敗があってもさりげなくこうかんを行うなど羞恥心への配慮を心がけています。	排泄チェック表を基に排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を支援している。水分を調整したり、繊維質の野菜を食事に加えるなどの便秘対策も行っている。夜間のトイレ移動を嫌う方などには、ポータブルトイレを設置して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を献立に取り入れたり、水分量のチェックでの把握、一人ひとりの排泄のタイミングの把握と日常に運動を取り入れたりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴のスケジュール表は作成してあるが、本人の希望なども伺い変更にも臨機応変な対応を心がけています。	週2回の入浴を行っている。夏場などは利用者の希望もあり週3~4回のシャワー浴をして、清潔感を保持している。季節の入浴剤やゆず湯などにして入浴を楽しむ機会を作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの活動の状況を把握し、自然なリズムが生まれるように、休息、睡眠をとれるようにしています。また照明や室温等の環境にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬やセットミスのないように、配薬マニュアルやチェック表を活用しています。処方薬の内容や副作用に関しては情報の共有をし皆が理解できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握してその方の楽しみな時間を提供できるように努めています。スタッフも一緒に行うことで共感しあえるよう取り組んでいます。お酒やタバコの嗜好品もスタッフの管理の元提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出の機会を設けていきたいと考えています。また家族様との関係性を大切にして家族様との外出や外泊が楽しめるように支援していきたいと考えています。	近くのショッピングモールに買い物や回転ずしなどに出かけている。月に2回ぐらいは井頭公園のバラ園の鑑賞や道の駅での買い物などの外出をしている。年末年始やお盆の時期には、家族宅に外泊する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行った際には声掛けしながらご自分の好きな物を選んでいただき購入していただいています。家族様と相談し、自己管理能力に応じて金銭管理をお任せしている方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もいらっしゃいます。利用者様から要望があった際はその都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目と白を基調とした全体的に温かく落ち着いた雰囲気、玄関や廊下には絵画を飾っています。季節の花を飾ったり、折り紙や工作をした手作りの作品を飾ったりしています。ホールからは菜園を眺めることもでき季節を感じることもできます。	ホールは窓が広く採光が多く入る造りとなっているため明るくて暖かい環境である。玄関や廊下、ホールには季節の花や折り紙の作品などが飾ってある。ホールからは、事業所の菜園を眺めることもでき、植物の成長を確認できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士で会話を楽しめるように席の配置をしています。畳のスペースは座るのに丁度良いスペースとなっているため洗濯を畳んだり、昼寝をする方もおり、思い思いに利用されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた椅子やテーブルを持ち込んでいただくことで、安心して居室で過ごしていただくことが出来ていると感じます。家族様の協力をいただきながら居室内の環境を整えていきたいと考えています。	自宅で使用していた椅子やテーブル、ラジオ、テレビを持ち込むことで、安心して居室で過ごすことができる。車いすを利用している利用者に対しては、ベッドの配置を変えるなど工夫して生活しやすいようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、各所には手すりが設置されています。ドアはすべて引き戸になっているため、少しの力で開けることができるようになっています。ベッドや、家具の配置も利用者様の使いやすさを考えて配置しています。		